



100年先を見据えて

Corporate Report 2023

リンガーハットグループ コーポレートレポート



すべてのお客さまに楽しい食事のひとときを 心と技術でつくるリンガーハットグループ

リンガーハットグループでは、お客さまが「食」される商品を提供しています。

「食」はおいしく健康的でさらに「安全・安心」でなければなりません。

変わりゆく時代の中でお客さまに求められる存在であるために、

私たちは、常に成長し、変わり続けることが大切だと考えます。

■報告対象組織

株式会社リンガーハット

リンガーハットジャパン株式会社(直営店・加盟店)

浜勝株式会社(直営店・加盟店)

リンガーハット開発株式会社

リンガーフーズ株式会社

株式会社ミヤタ

■発行

2023年5月23日

■お問い合わせ

株式会社リンガーハット CSRチーム

TEL.03-5745-8611 FAX.03-5745-8622

<https://www.ringerhut.co.jp/>

■報告対象期間

2022年3月1日～2023年2月28日※

※ 2023年3月1日以降の内容を一部含みます。



編集方針

2022年度も、新型コロナウイルス感染症の拡大により、事業活動や社会貢献活動にさまざまな影響を受けました。その中でリンガーハットグループは、創業60周年を迎えたこともあり、さらなる発展を目指し、「全員参加で、永続する企業体質をつくろう」をスローガンに掲げ、安全・安心で健康的な商品の提供はもとより、持続可能な社会への貢献ができるよう取り組んでまいりました。

本報告書では、SDGsの推進をはじめとした、サステナビリティ経営について紹介しています。

今後も、リンガーハットグループは永続する企業を目指し、QSCの向上＋社会貢献に取り組んでまいります。

CONTENTS

- 1 経営理念
- 2 目次・編集方針
- 3 トップメッセージ

Sustainability

- 5 リンガーハットグループの価値共創モデル
- 6 バリューチェーンにおける従業員のSDGsの取り組み
- 7 リンガーハットグループのマテリアリティ

Social－社会

- 9 安全・安心のために
- 10 **Topic ▶** 安全・安心を体験していただく活動
- 11 お客さまのために
 - Topic ▶** お客さまのご要望や店舗ごとの課題を見つける「月例会」
- 13 ステークホルダーのために
- 14 **Topic ▶** 米濱・リンガーハット財団の活動
食育への取り組み
- 15 従業員のために

Environment－環境

- 17 地球環境保護のために
- 18 **Topic ▶** フードロス削減への取り組み

特集

- 19 カーボンニュートラル社会の実現のために

Governance－ガバナンス

- 21 ガバナンスへの取り組み
コーポレートガバナンス
- 22 リスクマネジメント
コンプライアンス
社外取締役メッセージ
- 23 リンガーハットを支える経営陣

Corporate Data－会社概要

- 25 財務データ・非財務データ

DX推進と人財育成、多様な販売チャネルで、 多くのお客さまにおいしく安全・安心で 健康的な食を提供します。

2022年度(第59期)の振り返りをお願いします。

永続する企業体質を目指し、 DXによる効率化や高付加価値商品を投入。

創業60年を迎えた2022年度は、「全員参加で、永続する企業体質をつくろう」をスローガンに、安全・安心な国産野菜に強みを持つリンガーハットの「モグベジ食堂」、QSC+H^{※1}を目指す漬かつの「もっと、おもてなし」というリブランディング宣言のもと、60周年記念メニューなどの高付加価値商品を提供し、お客さまに愛されるお店づくりを進めてきました。また、2022年度は、DXの推進による店舗オペレーションの効率化や働き方改革を進めてきました。

原材料価格やエネルギー価格の高騰といった厳しい経営環境の中、業績は売上高377億34百万円、経常利益2億63百万円と回復傾向にあり、リンガーハットも漬かつも郊外型店舗から徐々に、お客さまの来店数がコロナ前の水準に戻ってきています。テイクアウトの売上も前期に引き続き好調です。海外店舗は4年ぶりに3号店を新規出店したカンボジアに加え、タイ、アメリカでも業績は回復傾向にあります。

サステナビリティについての取り組み状況はいかがですか。

マテリアリティの特定と、TCFDの開示へ。 今後も目標へ向けて取り組みを加速します。

サステナビリティは重要な経営課題であり、おいしく健康的で安全・安心な食の提供を通じて、サステナブルな社会の実現に貢献するため、ESG^{※2}の観点から重点的に取り組むマテリアリティ（重要課題）を特定し、2030年までの目標を設定しました^{※3}。私が委員長を務める「リンガーハットグループサステナビリティ

委員会」の中に役員をトップにした4つの分科会を設置し、目標達成へ向けて取り組みを加速していきます。

喫緊の課題であるカーボンニュートラルについては、2022年度にTCFD^{※4}のフレームワークに則ったシナリオ分析を行い、気候変動によるリスクと機会への対策とその指標および目標を定めました。サプライチェーンの排出量（Scope 3）の把握にも取り組み始めました。

フードロス削減の取り組みも「待ったなし」と捉えています^{※5}。富士小山工場で始めた規格外品の特別価格販売や、京都工場ではぎょうざの皮の端材を使った自家製かりんとうの製造にチャレンジするなどフードロス削減に取り組んでいます。

また、ダイバーシティ推進を強化すべく、週1回オンラインで開催している「ダイバーシティ推進みらい座談会」には私も参加し、部署や性別、国籍、年代を問わず自由な意見交換を行っています。2022年度は371名の社員が参加し、回を追うごとに活性化しています。

食の安全・安心への対応と企業価値創造についてのお考えを改めてお聞かせください。

トレーサビリティの確立で強みを確かなものに。

食の安全・安心・健康づくりは、リンガーハットグループが最も重視している課題です。現在はDXを活用した食材トレーサビリティシステムの確立を目指しており、佐賀工場では第1工程から最終完成品までのラインでトレースのテストを行っています。取引先と工場、そして店舗をすべてつなぐにはまだ時間がかかりますが、2年以内を目標に進めており、これが完成すれば私たちの大きな武器になると考えています。



株式会社リンガーハット
代表取締役社長兼CEO

佐々野 謙延

また昨今は、飲食店への迷惑行為が社会問題となっていますが、万が一、リンガーハットグループにおいてこうした迷惑行為が起きた場合は、毅然とした対応をし、しかるべき処置をとります。

2023年度(第60期)の方針・戦略についてお話しください。

出張販売や工場直売、冷凍自販機の拡大で、より多くのお客さまへ「おいしさ」をお届けします。

ポストコロナを見据えた新規出店は、ドライブスルー専用窓口を設けたロードサイド型など、ニーズの変化に対応していきます。

さらに、企業間(BtoB)取引、工場直売、冷凍自販機の拡大にも力を入れていきます。新たな販路の開拓では、企業の社員食堂でちゃんぽんと皿うどんを出張販売し、売上也好調でした。こうしたBtoBのチャネルは今後も拡大を進めていきたいところです。

佐賀、京都、富士小山の3工場で開始した直売は、現在は週末のみですが、近隣のお客さまからの好評価を得て、2023年度は営業日を増やしたり、フードロス削減のために考案した直売品が人気なので、商品としての開発、店舗での販売も視野に入れています。

冷凍自販機の売上も伸びており、現在までに設置台数は全国で90台になりました。推進チームとして新たに専門部署をつくり、今期はこれを倍にする計画です。さらに1台当たりの売上向上にも取り組み、新たに濱かつの冷凍かつサンドを投入しました。お店の味に近づけるため試作を重ねた自信作で、営業時間外の売上に貢献する商品となることを期待しています。

DX推進は、発注業務や人員管理に追われていた従業員の働き方を変え、本来の業務である調理や接客に専念できることを目的に導入を進めています。WEB発注システムは全店舗にて運用開始済みで、シフト管理の自動化も、順調にいけば2023年秋には全店で展開する予定です。DX推進の大きな目標としては、2年以内の食材トレーサビリティシステムの確立を掲げています。

リンガーハットグループは、これからも新たな時代への企業価値創造のチャレンジを続けて、外食産業の「勝ち組」を目指します。今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

※1 Q(品質)、S(サービス)、C(清潔)+H(ホスピタリティ)

※2 E(環境)、S(社会)、G(ガバナンス)

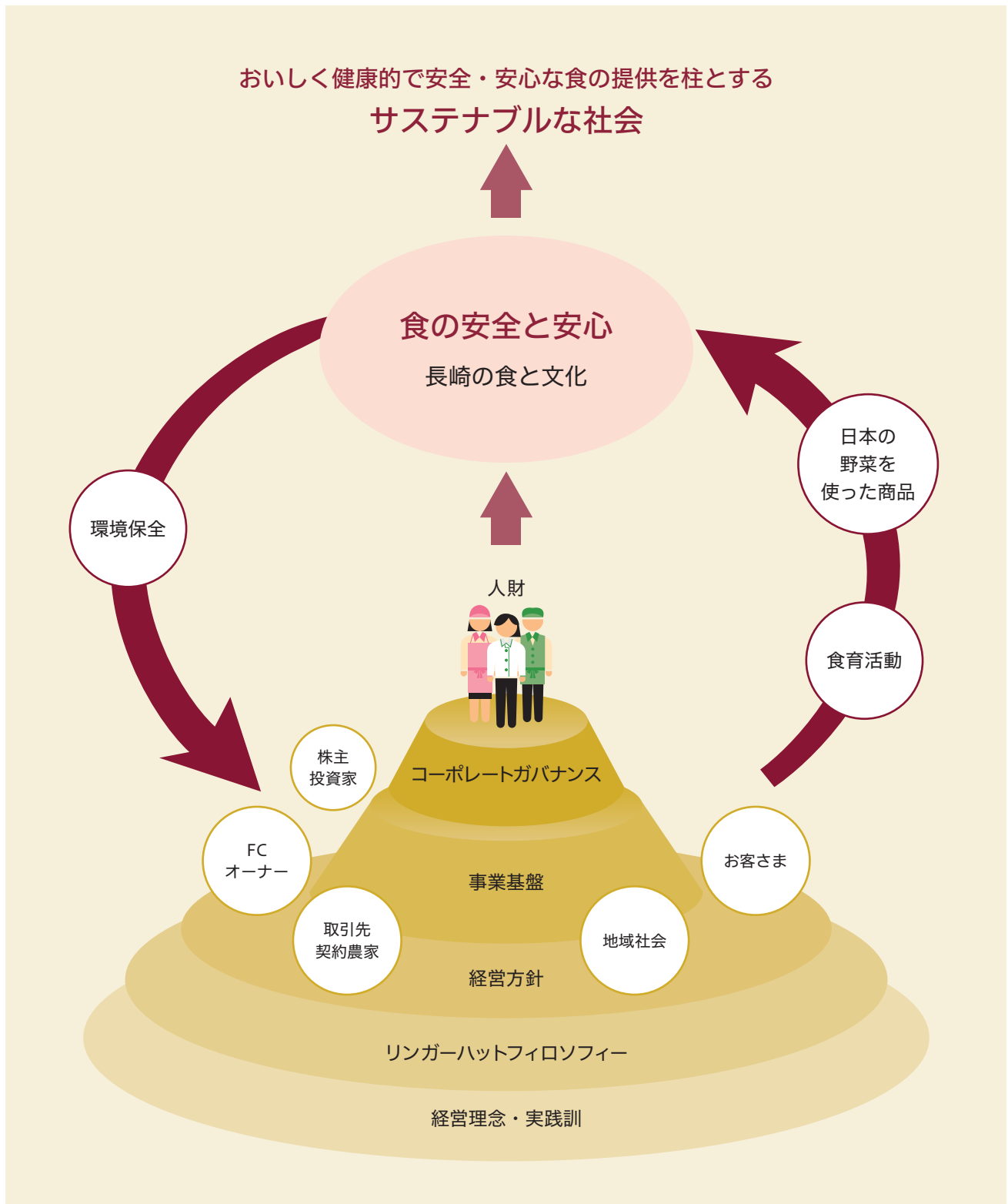
※3 P.7参照

※4 TCFD: 気候関連財務情報開示タスクフォース→P.19参照

※5 P.18参照

リンガーハットグループの価値共創モデル

リンガーハットグループは多くのステークホルダーの皆さまとの協力関係を大切に連携(共創)して、お客さまをはじめとした社会と環境に対し、より大きな価値を提供していくことを目指しています。



バリューチェーンにおける従業員のSDGsの取り組み

お客さまに安全・安心な食とサービスをお届けするために、
従業員一人ひとりが、品質確保・向上に向けた活動に取り組んでいます。

リンガーハットグループ のバリューチェーン

商品企画

調達

製造・加工

物流

店舗・接客

商品企画



商品開発チーム
主任
三溝 綾子

商品に健康という 付加価値を

ご要望が多かった、減塩メニューや
低糖質麺の開発に取り組み、商品化し
てきました。

また、「彩りちゃんぽん」のように緑
黄色野菜を多く使ったり、機能性を持
つ食材を取り入れるなど、お客さまの
健康に気づかったメニュー開発をこれ
からも提案してまいります。

調達



購買チーム
係長
樫 正樹

日本の野菜を届けたい

栄養価が高く安全・安心でおいしい
日本の野菜をお客さまへ届けるため
に、キャベツだけでも70産地の契約
農家さまと取引をしています。契約農
家さまのGAP※取得の推奨には特に力
を入れており、より良い食材の供給の
ため一緒に取り組んでまいります。

※GAP (Good Agricultural Practices): 「品質」「安全
性」「環境への配慮」などの一定基準を満たした農作物
に認められる規格

製造・加工



生産チーム
ライン長
山崎 利幸

安全を維持する 仕組みづくり

ISO22000食品安全マネジメントシ
ステムの認証を取得し、正しく管理・
運用しています。専門機関による維持
審査も毎年受け、常に改善していま
す。また、食品ロス削減のために、加
工の際に発生するキャベツの芯を細か
くカットして、ぎょうざに利用するな
どしています。

物流



佐賀物流チーム
ライン長
真島 絹子

配送によるCO₂排出量の 削減に向けて

リンガーハットグループの物流全体
のCO₂排出量の8割以上を占めている
「工場から店舗への配送によるCO₂排
出量」を大幅削減するため、中継セン
ターの活用、共同配送便（混載）利用
の拡大、最適配送ルートの再構築を全
国的に実施しています。

これにより、トータル走行距離の短
縮と、燃料消費激減を実現し、併せて
2024年問題対応としてドライバー拘
束時間短縮も目論んでいます。

店舗・接客



リンガーハット
ブロック長
長崎エリア担当
岩丸 千栄

誰もが輝ける働き方を

男女問わず平等に役職に就くことが
でき、リーダーシップを発揮できる働
きがいのある職場です。店舗では、障
がい者支援学校等の実習依頼にも積極
的に協力し、それぞれの個性や資質に
あった働き方ができるように支援学校
の先生と一緒に作業内容を考え、無理
せず取り組むようにしています。

また、美味しい野菜をお客さまにそ
のまま届けられるように調理にも気を
配っています。



とんかつ濱かつ
ブロック長
宮崎・鹿児島エリア担当
吉田 まゆみ

最高の笑顔で お客さまを迎えます

濱かつのスローガン「もっと、おも
てなし」を軸に、お客さまに喜んでい
ただける美味しい料理と最高の笑顔の
ご提供を心がけています。一人ひとり
との会話を大切に、お客さまとの関
係が少しでも近くなるような接客を
目指しています。また、従業員のモチ
ベーションを上げるために、お互いに
ポジティブな声かけを行っています。

働く人がやりがいを感じられるお店
づくりに日々取り組んでいます。

リンガーハットグループのマテリアリティ

(重要課題)

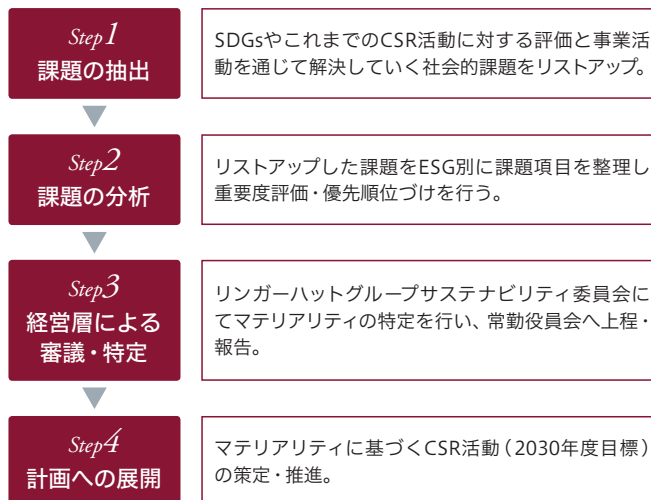
マテリアリティとは、さまざまな社会課題の中から環境・社会・ガバナンス(ESG)の観点で特定し、事業を通じて取り組むことを決めた「重要課題」のことです。

マテリアリティの特定方法

リンガーハットグループでは、外部からの要請事項や事業活動における社会課題との関連性・重要度を整理し、ステークホルダーと事業活動にとって重要度の高い3つのマテリアリティを特定しました。

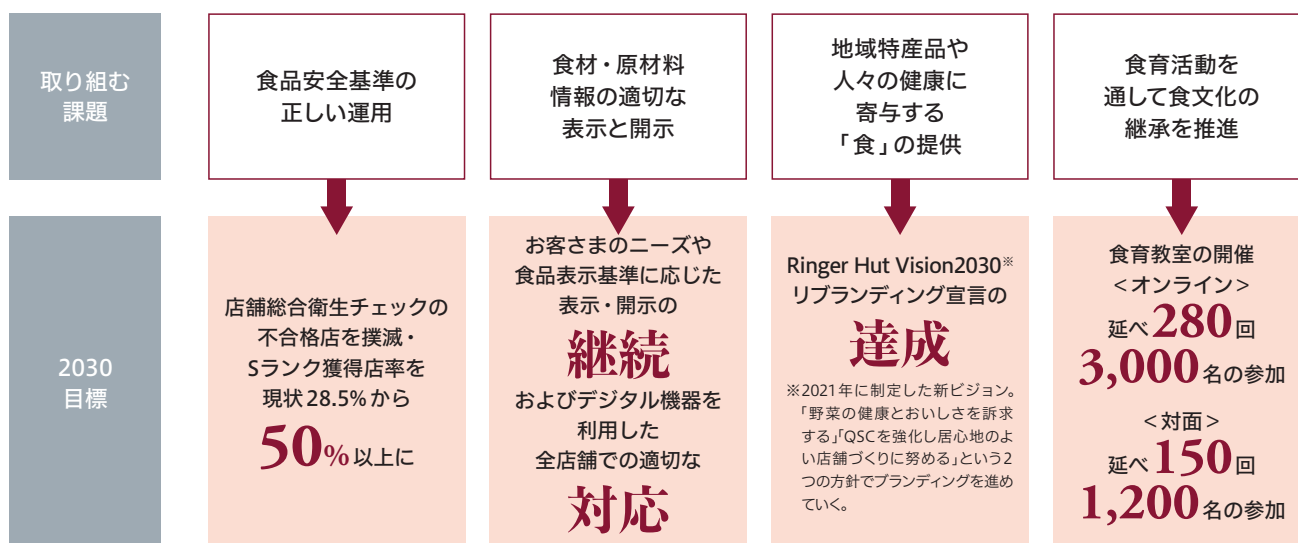
グループの各事業を通じて社会課題の解決に貢献するために環境・社会・ガバナンスのESGの観点から特定されたマテリアリティ(重要課題)があります。ここでは、マテリアリティに設定されたSDGsゴールと、環境認識や課題、KPI(目指す姿)および2030年までの目標と具体的な取り組みについてご紹介します。

マテリアリティ特定のプロセス



Materiality 豊かな社会づくりへの貢献

リンガーハットグループは
「食」の安全・安心と地域の発展、次世代の育成に貢献します

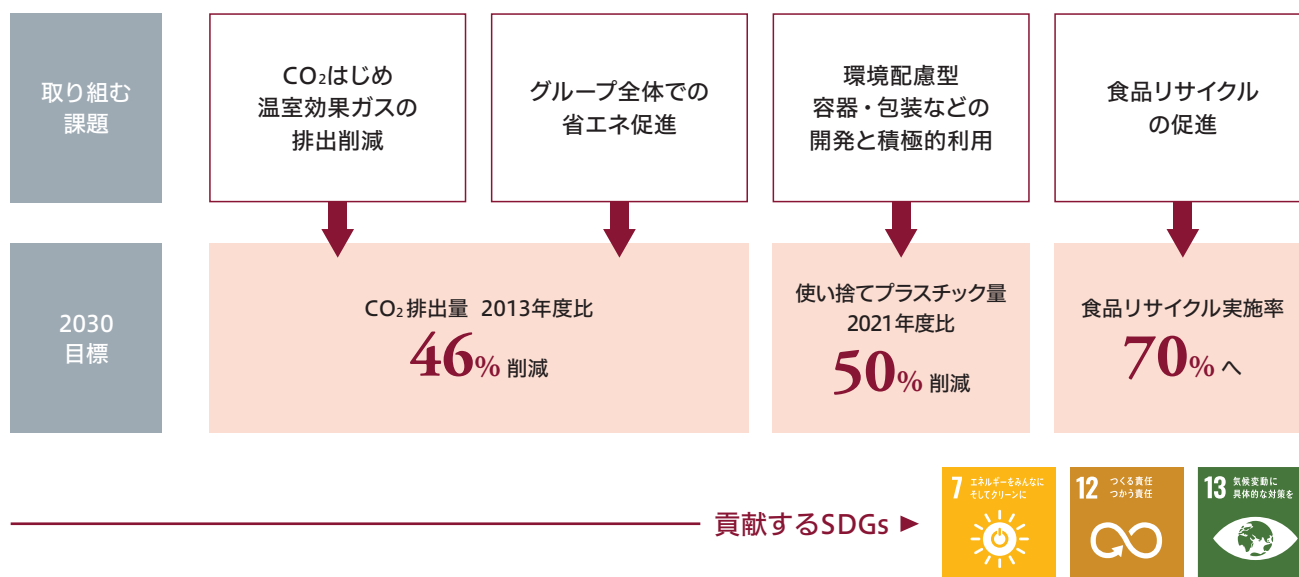


貢献するSDGs ▶



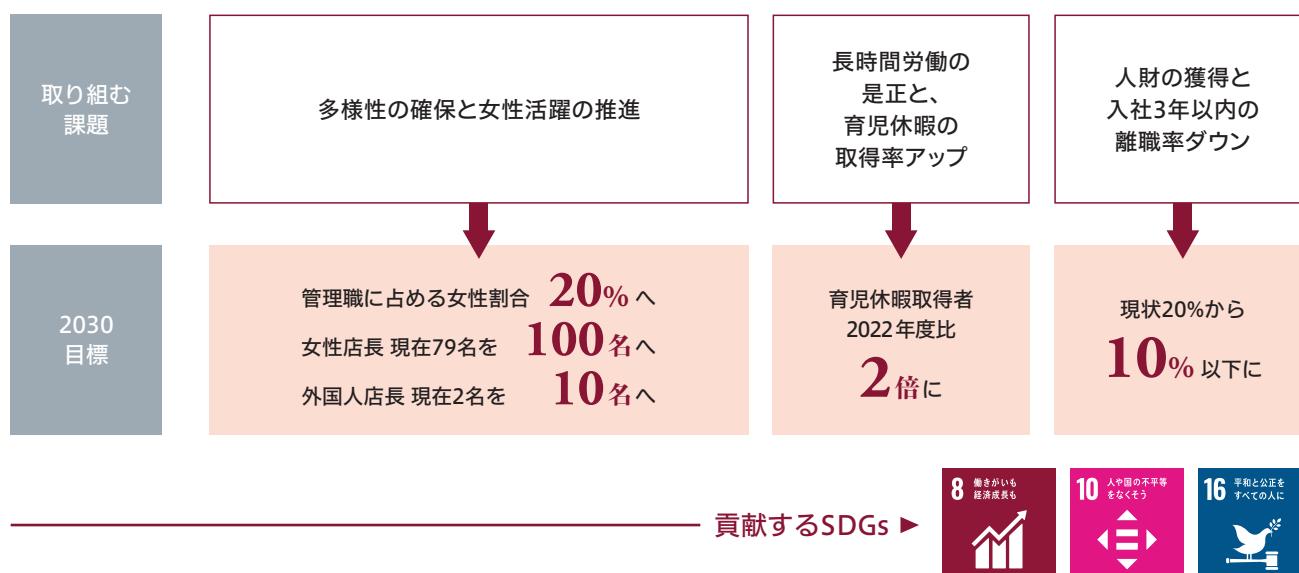
Materiality 地球環境への配慮・負荷の低減

リンガーハットグループは
「食」を通じて持続可能な循環型社会の形成に貢献します



Materiality 誰もが自分らしく安心して働ける職場

リンガーハットグループは
職場での人間尊重と、働きがいのある環境づくりに貢献します



安全・安心のために

お客さまに安心してお食事を楽しんでいただくため、
工場・店舗における品質管理・衛生管理を徹底しています。

》工場における取り組み

①品質管理の徹底

リンガーハットグループでは安定して高品質な製品を製造するため、品質管理を実施しています。

各工場では、品質管理チームにて、製造ラインの拭きとり検査、計量機器の校正、冷蔵・冷凍機器や製品の温度確認を行っています。また、製造した商品、具材の微生物検査を行い、基準不適合な状態の場合は、原因究明と改善指導を行っています。

外部の衛生管理コンサルタントによる研修を定期的に受け、品質保証部・工場ライン長のレベルアップ、衛生管理の徹底を図っています。



品質管理チームによる検査



非接触型の設備で手に付いた汚れや菌を洗い落とします



製造ラインに設置した金属探知機による検査

②食品安全衛生

リンガーハットグループでは国内すべての工場（佐賀・京都・富士小山）において、国際規格ISO22000：2018認証を取得し、食材加工時における異物混入や微生物汚染などのリスクに対する衛生管理・品質管理を徹底しています。

加工製造に使う食材は、国産野菜をはじめとする生産者の顔が見える食材、農薬・化学肥料等を抑えた生産品の使用に努め、お客さまに安心して召し上がっていただくための食品製造を行っています。

③異物混入防止

工場では、食材の加工製造ラインに金属探知機やX線検査装置を用いて金属由来の異物、石、骨などの硬質異物の混入を排除しています。

店舗および自動販売機、オンラインショップなどで販売している冷凍商品においても、金属探知機、X線検査装置にて検査を実施した上で出荷しています。

製造ラインで作業にあたる従業員は専用の作業服と帽子、マスクを着用します。

製造ラインに入室前には、エアシャワーや粘着ローラーを用いて、着衣に付着した異物を取り除いています。

1分間手洗いも実施し手指の消毒も徹底的に行っています。



作業着に付着した異物をエアシャワーで取り除きます



》店舗における取り組み

①店舗のクリンリネス

リンガーハットグループでは、仕事の目的を「ご来店いただくすべてのお客さまにおいしい料理を、快適な雰囲気の中で気持ちよく召しあがっていただく」としています。

この目的のために、グループ全体で、店舗や工場の5S活動（整理・整頓・清掃・清潔・躰）を率先しています。

新型コロナウイルス感染症予防対策の「手指消毒」「店舗内のアルコール消毒」「店内換気」についても継続して実施します。



5S活動の様子



アルコールによる拭き上げ

②食品安全衛生

店舗では工場から配送された食材を定められた保管方法で保存し、冷蔵設備等の適切な温度設定と管理運用の徹底に取り組み、食材の品質・衛生管理を図っています。また、保管に用いる機器が規定温度で適切に作動しているかを、定期的に記録確認しています。

③従業員の衛生管理

リンガーハットグループでは、安全・安心な食の提供を実現し続けるために、従業員の衛生管理教育に日々取り組んでいます。

- ①手洗いの励行 ②頭髮チェック ③体調管理
- ④店内のクリンリネス ⑤食材管理
- ⑥冷凍・冷蔵庫温度管理

勤務する前には、検温、当日の体調、身だしなみ、手指の傷の有無、手洗いの実施などをタブレットの個人衛生チェック表に入力し記録を残すようにしています。

Topic ▶ 安全・安心を体験していただく活動

リンガーハット名古屋弥富通店での職場体験実施レポート

2023/1/31(火)～2/2(木)

リンガーハットグループの安全・安心の取り組みをお伝えし、社会に出る前の事前準備としていただくため、地域の中学生をお迎えして職場体験を実施しています。

今回の職場体験ではリンガーハット名古屋弥富通店のパートさん4名が指導にあたり、クリンリネス指導はパートさん2名が担当しました。中学生の皆さんには3日間にわたって、手洗い、身だしなみのチェックから、清潔な店舗にお客さまを迎えるための玄関・トイレ・窓の掃除、駐車場の掃き掃除、食後の下げ膳まで、安全・安心な店舗づくりのプロセスを体験していただきました。

参加した皆さんからは「3日間大変だったけど、有意義で楽しい時間でした」「何かを皆で作り上げ、無事終わった時の達成感はとても気持ちがいいです」との声が聞かれました。

これからも地域の皆さまに愛される活動をしてまいります。



お客さまのために

お客さまの声を心を開いてお聞きし改善に努めます。

お客さま相談室

リンガーハットグループお客さま相談室では、お客さまから寄せられたさまざまなご意見をもとに、グループ内の各部門・店舗・工場と連携し、QSCの改善に取り組んでいます。

2022年の改善例 お客さまのご意見

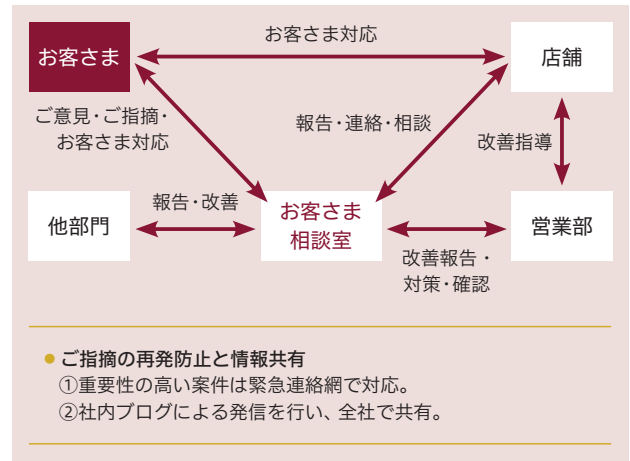
- 「北海道コーンみそちゃんぽん」のコーンがすくいづらいのでレンゲを変更してほしい
- 「北海道コーンみそちゃんぽん」のスープを飲みほさないとコーンが食べにくい

改善

通常のレンゲとともに穴あきレンゲを提供しました。



お客さま相談室の仕組み



Topic ▶ お客さまのご要望や店舗ごとの課題を見つける「月例会」

リンガーハット葛飾新宿店の月例会レポート

2023/3/18(土) 9:00～10:00実施

店長、パートさん11名の総勢12名が参加

グループの経営上層部からも重要視されている「月例会」は、店舗ごとにプロモーションについての話し合いやQSC教育が行われている月1回の定例会です。



ブロック長・店長
中村 健一郎

基本的にスタッフ全員参加で、時には佐々野社長や役員の方も参加されます。主に業績報告や実施事項などの話し合いや発表をします。人前での発表が得意な人、苦手な人がいますのでこの場で練習をしてもらい、それが結果、接客の訓練につながっています。

自分たちで話し合っただけで決めた企画が通り、準備をして、さらに実行できるということは、とてもモチベーションアップになっています。2023年には、2年ぶりにお客さま感謝祭を再開できるので、今日はその話し合いをしました。



時間帯責任者
堀内 祥子

月例会には、学生のパートさんも積極的に参加してくれるので助かっています。発表などの準備は大変ですが、協力し合って行っています。

イベント企画の提案を出し合ったり、みんながオペレーションで困っていることを調べて報告したり、以前の反省を課題として実行してみてクリアできたら、次の課題を考えたり、話し合う内容は月ごとに店長からテーマを投げかけられますので、この場を上手に使っています。



新たな販路の拡大 3年ぶりに新店オープン増

リンガーハットでは2022年度、国内5店舗（リンガーハット愛知安城店、豊中利倉東店、さいたま吉野店、イオン天王町店、三郷中央店）をオープン。さらに海外では2018年以來4年ぶりにカンボジア3号店目となる、リンガーハットイオンモール ミエンチェイ店を出店しました。

また、初の試みとなる「無人冷凍食品直売所」東京青梅店、福岡長住店、八王子八日町店の3店舗を出店し、新たな販路の開拓へと一歩を進めました。



（左）三郷中央店



（下）冷凍食品直売所 青梅店



テイクアウト対応・冷凍自動販売機の充実

リンガーハットの新規店舗では、座席でのタブレットオーダーやセミセルフレジなどの非接触型のシステムを導入。入店せずに注文からお支払いまで可能なテイクアウト専用窓口の設置など、安心してご利用いただける設備の充実を図りました。

また、2021年10月より設置を始めた冷凍自動販売機は全国90カ所の設置まで拡大。ちゃんぽん・皿うどん・ぎょうざなどリンガーハットの主力商品全8品目を24時間いつでも家庭で楽しめるとご好評いただいています。



（左）冷凍自動販売機
（右）テイクアウト専用窓口



新商品も加わり全8種販売中

時代のニーズに合った商品開発

リンガーハットは、お客さまのニーズに応え、安全・安心で健康的な減塩メニュー、低糖質麺、緑黄色野菜を採用したメニューの開発を行ってきました。2022年度は、従来品よりカロリー約10%減、タンパク質約32%増、麺なしの低糖質メニュー「野菜たっぷり食べるスープ」のリニューアルや、若手女優とのコラボメニュー「あさりとアスパラの鶏白湯ちゃんぽん」の開発を行いました。

濱かつは、九州の素材・若者向け・健康的をキーワードにしたメニューや、初の冷凍食品となる「冷凍ヒレかつサンド」「冷凍ロースかつサンド」の開発に取り組みました。



あさりとアスパラの鶏白湯ちゃんぽん

野菜たっぷり食べる
スープ

ステークホルダーのために

ステークホルダーの皆さまとの対話を深め、
「食」を担う企業としての社会的責任を果たしていきます。

契約農家さまとの協業

新型コロナウイルス感染症の蔓延やロシアのウクライナ侵攻など世界情勢の影響による不安定な経済環境が続く中、契約農家の皆さまとは緊密な連携を図り、野菜の栽培計画を共有してきました。

また、社員がJGAP指導員の資格を有しており、生産管理の指導を行うなど、日本の農業の存続と発展にも貢献していきます。

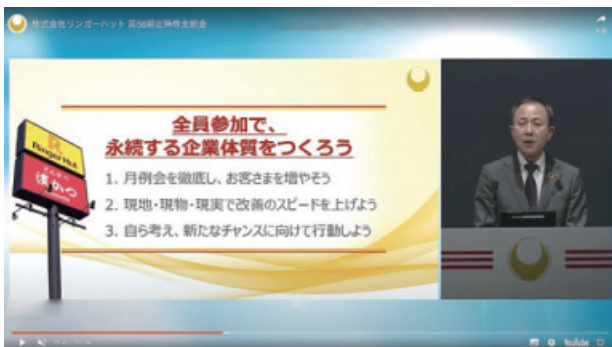


契約農家さま

株主・投資家さまとともに

2022年5月に開催された株主総会では、2021年度に引き続き会場への参加人数を抑制し、オンライン配信によるライブ中継と並行して行いました。

ライブ中継には80名の株主さまにご視聴いただき、質疑応答ではご参加いただいた方からさまざまなご意見が寄せられました。



FCオーナーさまとともに

個別相談会やフォローアップミーティングなど対話をする機会を設け、FCオーナーの皆さまとのコミュニケーションの機会を増やし、FCオーナーさまが直面する経営課題の解決にも積極的に支援を行いました。

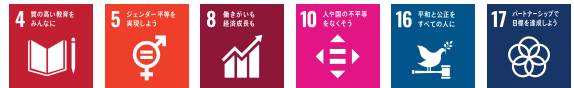
地域社会とともに

リンガーハットグループは地域・社会との連携を図り、地域の発展に寄与する活動に取り組んでいます。

2022年12月には、創業より支えてくださっている長崎県の皆さまへの感謝の一環として、長崎県警と「長崎県の安全・安心なまちづくりに向けた協定」を締結しました。2023年12月まで、運転免許を自主返納されたご高齢者を対象に、長崎県内のリンガーハットグループ全店でお得なサービスを提供する「ご高齢者免許返納キャンペーン」を実施します。ご高齢者の自動車運転による交通事故ゼロを願う企画の実現となりました。



※ 2023年3月に、同年12月31日まで延長されることが決まりました。



Topic ▶ 米濱・リンガーハット財団の活動



株式会社リンガーハット 名誉会長
公益財団法人
米濱・リンガーハット財団代表理事

米濱 和夫

「企業は社会の公器である」という理念と、自身の苦学の経験から、長年構想をしてきた米濱・リンガーハット財団を設立したのは2015年のことです。未来ある若者の支援と、文化・芸術・スポーツを通じて人間形成に役立ててもらおうべく、返還不要の給付型奨学金の実現、ジュニアサッカー「米濱・リンガーハットカップ」の主宰に漕ぎ着けました。

奨学金は2023年2月までに延べ107名に支給しています。先日は進学の後、見事弁護士への道を歩むことが決まったという奨学生からお礼の手紙が届き、胸をいっぱいにしていました。

財団としては、将来日本や世界のために活躍する人財に育ってほしい、若い人に可能性を伸ばしてほしいと切に願っています。

公益財団法人米濱・リンガーハット財団は、株式会社リンガーハットと当社グループ創業家のヨネハマホールディングス有限公司が共同で、育英事業、文化・芸術・スポーツ等の発展普及の推進事業を目的として2015年9月1日に設立した公益財団法人です。

Topic ▶ 食育への取り組み

食育教室の開催回数は累計175回、延べ参加人数1,007人になりました

楽しい調理実習やクイズを通じて、日本の食文化や野菜をより好きになっていただけるよう、「リンガーハットこども食育教室」を開催しています。2021年2月より、自宅から参加できるオンライン食育教室を開始し、より多くのお子さまにご参加いただけるようになりました。事前にご自宅に送付した食育キットを使って、店舗での開催と同じように、調理やクイズをしながら楽しく学んでいただくプログラムです。2022年度の食育教室は、オンラインで24回開催し、181名に参加いただきました。店舗では2回開催し、11名にご参加いただきました。これからも、店舗・オンラインの両方で展開していきたいと思えます。



参加者の声

- 親子で楽しく参加できました。
- 野菜のクイズに興味を持ち、自分で盛り付けたおかげか、娘が初めてちゃんぽん1人前を食べました。こうやって食事が楽しくなるのだと分かりました。

終売メニューの食材の寄付

食品ロスを減らし、食材を必要とされている方に届ける取り組みをしています。2022年8月、リンガーハットで終売となるお子様メニュー食材の寄付を行いました。創業地である長崎県の皆さんにお渡しできればと、「一般社団法人ひとり親家庭福祉協会」のご協力のもと、第一弾として107のひとり親世帯に、冷凍パンケーキ、ソーセージ、ブロッコリー等をお届けすることができました。

従業員のために

さまざまな個性を持つ人財一人ひとりがお互いに尊重しあい、
「食」の未来づくりに貢献し、活躍できる職場環境を目指します。

》リンガーハットグループのダイバーシティ

基本的な考え方

リンガーハットグループでは、多様な視点や価値観を尊重し、さまざまな知見やバックグラウンドを持った人財が活躍できる職場環境を整備することが重要と考えています。2021年からは女性活躍推進活動をダイバーシティ推進活動へステップアップさせ、人事チーム内にダイバーシティ推進担当を配置。毎週「ダイバーシティ推進みらい座談会」を開催しています。

ダイバーシティ推進みらい座談会とは

全社員のつながり強化と社員からの意見収集を目的に毎週開催しています。代表取締役社長が推進役となり、年齢・性別・国籍を問わず参加する社員たちと積極的な意見交換を行っています。

1回15名ほどが参加し、集まるメンバーの役職や所属、男女比、年齢構成比は週によってバラバラです。「社員間コミュニケーション」がメインの目的なので、テーマを決めないまったくのフリートークの場合もあれば、社長から「仕事を楽しむためにやっていること」などのお題が出され、全員で自由に話し合うこともあり、回を追うごとに活性化しています。

役員を除く全社員を対象としており、2022年度は39回開催し、371名が参加しました。



ダイバーシティ推進みらい座談会

エルダー研修

リンガーハットグループでは、55歳以上の社員を対象に、持続して働くことのできる環境・意識づくりを目的とした「エルダー研修」を行っています。

2022年度は、資産・健康管理・貢献感・能力開発・人間関係のカテゴリーでこれまでの振り返りとこれからの自分自身について考えるという内容で実施し、社員9名が参加しました。

研修後、参加者からは「後輩社員にこれまでの自分の経験を伝えていきたい」「シニア社員として後輩のロールモデルになりたい」といった声が聞かれました。多様な人財が活躍できるリンガーハットグループを目指し、今後も継続して開催してまいります。

ユニバーサルマナー講座の開催

2022年7月、リンガーハット東京本社において「ユニバーサルマナー検定3級」の取得講座が行われ、代表取締役社長や役員を含む社員34名が受講しました。

ユニバーサルマナーとは、障がい者や高齢者、外国人など何らかの助けを必要とする多様な他者に向き合うための、マインドとアクションを身につけることです。本講座では、現場での「声かけの方法」など基本を学び、店舗における実践に役立てるための演習も行いました。

ロイヤルホスト(ロイヤルフードサービス株式会社)さまとの合同研修

他社社員との交流による人脈の形成・視野の拡大を目的に、ロイヤルホストさまとの合同研修を行いました。対象は入社3年以内の社員で、2022年度は1回開催し、ロイヤルホストさまの社員21名、リンガーハットの社員17名が参加しました。



》働きやすさの向上 ～ワーク・ライフ・バランス～

フィロソフィーセミナーの開催

フィロソフィーセミナーは、リンガーハットグループの経営理念を浸透させるために、従業員を対象として2013年度から実施している理念教育です。新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、集合教育の形からリモート中心となりましたが、継続して開催しています。日々の業務に従事する中、フィロソフィーを改めて見つめ直す良い機会になっています。

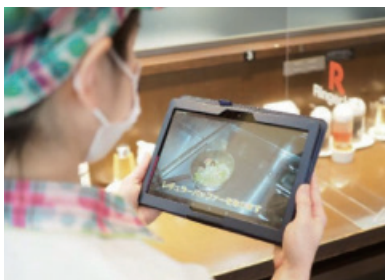
普遍的なものを変えていくべきものの両方に取り組んでおり、2022年度のセミナーはフィロソフィーとSDGsとの融合をテーマにしました。

2022年度は22回実施し、550名が参加しました。

DXの推進による働き方改革

リンガーハットグループでは、煩雑な労務手続きを自動化できる人事・管理システムの運用をグループ全社で開始しました。DX推進の一環として、人事労務をクラウドで効率化し、ペーパーレスの実現にも取り組んでいます。

この運用により、発注業務やシフト管理に追われていた店長が、調理と接客に時間をかけられるようになることで顧客満足度アップにつながることを期待しています。グループの約700店舗に、従業員育成および業務の標準化と効率化を図るためマニュアルをクラウド化した「Teachme Biz」(ティーチミー・ビズ)を導入しています。



「Teachme Biz」活用の様子

ハラスメント・違反行為の改善

リンガーハットグループでは、お互いの人格や価値観を尊重し合い、社員が安心して働ける職場づくりを推進しています。

『リンガーハットグループ 行動基準』を全社員に周知しハラスメントを未然に防ぐための啓発活動を行っています。

また、違反行為があった際に、従業員が安心して相談できるよう「リンガーハット・ヘルプライン」を設置しているほか、社外にも第三者機関による相談窓口を設けています。



労働環境への配慮と労災予防

リンガーハットグループでは、適切な労働環境維持および就業時間の管理の徹底に取り組んでいます。

勤務時間の記録管理等を行い、勤務状況の適正化のための施策を実施しています。

店舗運営の管理指導を目的とした店長会議では、職場の安全、従業員の健康に関する課題把握と指導を行っています。

労働災害予防の実施状況の検証、従業員の健康管理における問題の把握を目的とした、産業医・組合代表・当社労務顧問で構成される安全衛生委員会を設置しています。

労働災害件数（2022年度）	5件
----------------	----

地球環境保護のために

リンガーハットグループは、自然と環境を守るために
持続可能な地球環境の保全活動に取り組んでいます。

全工場で再生可能エネルギーを導入

リンガーハットグループでは、2050年までにグループ内のカーボンニュートラルの実現に向け、工場・店舗における省エネ化・脱炭素化の取り組みを進めています。

2022年4月より工場で使用する電力を再生可能エネルギー由来のエコ電力に切り替え、現在すべての工場で導入済みです。これにより年間で約9,000トンのCO₂排出量を削減しました。



京都工場の太陽光発電



FSC 認証紙袋（漬かつ）



バイオマス配合の弁当容器（漬かつ）・スプーン

廃棄物の抑制・プラスチック製素材の削減

リンガーハットグループでは、店舗における生ごみ処理や工場において発生した野菜くずのリサイクルにより、グループから排出される廃棄物の抑制に取り組んでいます。

また、プラスチック資材30%削減の取り組みも継続しています。国内店舗ではプラスチック製ストローの提供を廃止。テイクアウト容器やスプーンについても、バイオマス素材配合のものに順次、切り替えを行っています。

国産野菜の使用でSDGs貢献

2009年から続けている「国産野菜使用率100%」の取り組みは、食料自給率を上げ日本の農業を守るだけでなく、フードマイレージ（食料の輸送にかかる石油などのエネルギー使用量）の低減によるCO₂やNO_x（窒素酸化物）の排出削減にもつながり、地球環境保護にも貢献しています。

リンガーハットグループマテリアルフロー

	INPUT	OUTPUT
店舗	エネルギー - 電気 52,487千kw/h - 都市ガス 213t - プロパンガス 1,584t 水 636千㎡	廃棄物 - 可燃物 1,985t - 不燃物 397t - ダンボール 73t CO₂ 29,279t
工場	エネルギー - 電気 19,255千kw/h - 重油 24kl - プロパンガス 1,061t - 都市ガス 433t 水 343千㎡ ※工場の電力は再生可能エネルギー由来のエコ電力を使用しています	廃棄物 - 可燃物 466t - 不燃物 209t - ダンボール 362t CO₂ 4,417t 野菜くず 3,092t 野菜くず 3,092t リサイクル
配送	エネルギー 軽油 1,833t	CO₂ 4,738t

CO₂排出量の推移 2020年 /1,472(49,819)、2021年 /1,389(47,367)、2022年 /1,020(38,471)

※表記の見方：年度 / 原単位当たり[kg/百万円]（総排出量[t]）



Topic ▶ フードロス削減への取り組み

「あいちエコアクション・ポイント」に参加

愛知県内のリンガーハット30店舗が、2023年2月より「あいちエコアクション・ポイント」に参加しています。このポイントは県民の環境配慮行動（エコアクション）を促すために愛知県が独自に発行しているもので、店舗等において対象のエコアクションを実践するとポイントが付与されます。リンガーハットは、10ポイント付与の対象となるエコアクション「飲食店での食べ残しゼロ」に参加しています。

● エコアクション「飲食店での食べ残しゼロ」

- 飲食店で食べきる。
- 食べきれないものを持ち帰る場合は、家庭から持参した容器または店から提供する容器を使用する。
店から提供する容器は、環境配慮型の容器（紙製、バイオマスマーク 50、エコマークの刻印のあるもの）とする。



食品廃棄ゼロ京都プロジェクトへの参加

リンガーハット京都四条河原町店は2022年11月、公益財団法人 Save Earth Foundationが実施する「食品廃棄ゼロ京都プロジェクト」への参加を表明しました。「食品ロスゼロ×食品リサイクル100%」を目指して、「京都市食べ残しゼロ推進店舗」として市や京都大学と連携し、食品廃棄の発生原因の特定と抑制やお客さまとのコミュニケーションによる食品ロス削減を図ります。



「子ども食堂」プロジェクトへの参加

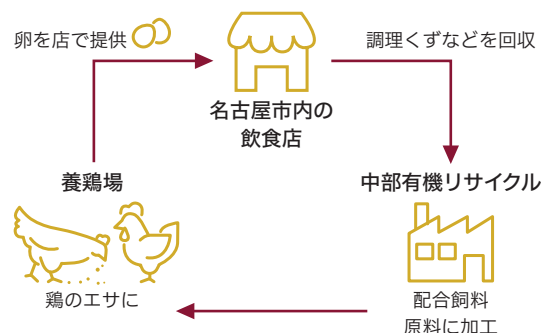
2022年4月、リンガーハットは日向市日知屋のイオン日向店で行われた「子ども食堂」プロジェクトに参加しました。リンガーハットはフードコート内の他3店舗と共同で500円分の食事券を高校生以下の子ども50人に事前に配布し、当日はおのおのが食べたいものを選んで楽しい食事のひとときを過ごしました。

食品リサイクルループ構築

リンガーハットジャパンでは、循環型社会を実現する取り組みの一環として、2020年9月より外食事業者4社と協力して、名古屋市内5店舗の食品リサイクルループの取り組みを開始しました。

この取り組みは、店舗より排出された調理くずや残さを飼料化し、採卵鶏に給餌し、生産された鶏卵を商品として調理しお客さまに提供する取り組みです。2022年度はリンガーハット5店舗の9.4トンの食品残さが採卵鶏の飼料として再利用されました。

富士小山工場では、排出した食品残さを「豚の飼料」として、育てた豚の肉をハム・ソーセージ等に加工作し、フードバンクや子ども食堂に寄付する取り組みを始める予定です。



カーボンニュートラル社会の実現のために

リンガーハットグループはTCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)に賛同し、その提言に沿った情報開示を行います。

TCFD提言に沿った情報開示

TCFD 提言はガバナンス・戦略・リスク管理・指標と目標の4つの項目に基づいて開示することを推奨しており、リンガーハットグループは、TCFD 提言の4つの開示項目に沿って、外食事業における気候変動関連情報を開示します。



ガバナンス

リンガーハットグループは、気候変動などの環境問題に対応するため、代表取締役社長兼CEOが委員長を務める「リンガーハットグループサステナビリティ委員会」において、気候変動におけるシナリオ分析および各事業への影響について、リスク・機会の特定と、対応策の評価・審議を行っています。

当委員会で審議した内容については、常勤役員会で議論が行われ、取締役会に上程・報告されます。取締役会で承認された事柄は、当委員会が関係会社や各部門のサステナビリティ推進委員に伝達します。サステナビリティ推進委員はリーダーとして対応策を実行し、状況について当委員会へ報告します。

また、リンガーハットグループサステナビリティ委員会で選別・評価した気候変動関連リスクについては、CSRチームへ報告され、CSRチームは全社リスクとしての統合管理を行います。

戦略

現在、カーボンニュートラルに向けた施策促進は多くの企業にとって大きな課題となっています。リンガーハットグループでは、工場・店舗における省エネ化・脱炭素化の取り組みを進めており、2050年までにグループのカーボンニュートラルの実現を目指しています。将来の気候変動がグループにもたらす影響について、TCFDが提唱するフレームワークに則り、シナリオ分析の手法を用いて、2030年時点の外部環境変化を予測の上、分析を行いました。

■ シナリオ分析の前提

シナリオ分析では、国際エネルギー機関(IEA)や、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)が公表する複数の既存シナリオを参照の上、気温上昇を工業化以前と比べて2℃未満に抑えることを目指す想定である「2℃シナリオ」と、現時点を超える政策的な緩和策を取らない想定である「4℃シナリオ」の2つの世界を想定し、分析を行いました。



■ シナリオ分析に基づく対応策（外食事業）

対象とするリスク・機会			事業・財務への影響有無		施策
			2℃シナリオ	4℃シナリオ	
炭素価格、 再エネ・ 省エネ技術の 普及	リスク	炭素税導入により、原材料調達コスト・化石燃料を使用したエネルギーコストが上昇	○	－	原材料調達の低炭素化 ▶ サプライヤーと協業し、原材料調達に係るCO ₂ を削減
	機会	低コスト化した自然エネルギーの導入によって、エネルギーコストが減少	○	－	再エネへの切替 ▶ 再エネ調達方式（自社設備保有・再エネ事業者との契約等）を検討し、切替
消費者行動 の変化、 投資家の 評判変化	リスク	商品やサービスに関する環境配慮情報の提供不足によるブランドイメージの低下	○	－	脱炭素に向けた活動実績（業界標準レベル）の外部発信 ▶ 低炭素社会実現に向けた施策（業界標準レベル）の実績の取りまとめ、外部発信
		気候変動への対応が不十分であるとみなされ、企業の評価・信頼・イメージ悪化および株価下落	○	－	
平均気温の 上昇、降水・ 気象パターンの 変化	リスク	気温の上昇に伴う害虫の増加により農作物の収量低下・品質劣化が発生し、原材料コストが増加	○	○	コスト増の原材料を回避したメニューへの変更 ▶ コストが増加した原材料を使用しないもしくは量を削減（代替の原材料を使用）した形のメニューに変更
		海水温度上昇により漁獲高が減少し、水産の原材料コストが増加	○	○	
		異常気象により農作物の収量低下・品質劣化が発生し、原材料コストが増加	○	○	
海面の上昇、 異常気象の 激甚化	リスク	海岸沿いの店舗への浸水による稼働・営業停止	○	○	BCP対策の強化 ▶ 気候変動に関する基本方針を作成し、重要な業務特定、事前対策を検討の上、既存のBCPを更新
		被災による工場の稼働停止と店舗の営業停止	○	○	
		物流の遅延・寸断増加による工場の稼働停止と店舗の営業停止	○	○	

リスク管理

気候変動関連リスクについては、リンガーハットグループサステナビリティ委員会を中心に以下のプロセスを実行しながら、常勤役員会への上程・報告、さらには取締役会からの承認・助言を受け、全社を通じたリスクマネジメントを行っています。

- 短期・中期・長期の気候関連リスクおよび機会の特定と重要度評価
- 特定された重要な気候関連のリスクおよび機会に対する取り組み方針・気候関連のリスクおよび機会への具体的対応策の検討・提案
- リスクおよび機会に対し、実行対応策の進捗管理

指標と目標

事業活動におけるCO₂排出量（Scope 1,2）に加え、2022年度より原材料の調達・配送、FCチェーンなどを含むサプライチェーンのCO₂排出量（Scope 3）の把握に取り組み始めました。今後開示を進めてまいります。

目標値に関しては、2022年度のCO₂排出量を基準値に、政府の掲げる2030年度での温室効果ガス排出量46%削減指標（2013年度比）と連動した目標の設定を行います。また、2050年度には、政府の掲げるカーボンニュートラルに沿ったScope 1,2のCO₂排出量実質ゼロ達成を目指してまいります。

》コーポレートガバナンス

コーポレートガバナンス体制

役員報酬は指名・報酬委員会における審議・答申を踏まえ、取締役会にて決定され、取締役の能力や職責貢献に基づく固定報酬部分、利益率基準に基づく業績連動報酬部分、株主目線での企業価値向上を促すインセンティブ・プランとしての譲渡制限付株式報酬で構成されています。社外取締役については固定報酬のみで、業績連動報酬および譲渡制限付株式報酬は適用していません。

- 21 リンガーハットグループ コーポレートレポート 2023



》リスクマネジメント

リンガーハットグループでは、グループ全体のリスク管理を「危機管理マニュアル」を用いて行っています。想定されるリスクを(1)自然災害、(2)事故、(3)社会・経済、(4)経営に分類し、CSRチームが中心となって評価ならびにリスク管理を行っています。

また、不測事態の発生を想定したマニュアルや内部通報システムの整備を図ることで、グループ全体のリスクを網羅的・統括的に管理しています。

》コンプライアンス

グループ行動基準に掲げる「5つの実践訓」と「リンガーハットフィロソフィー」を指針に、法令と定款を遵守する指導を実施しています。

違反行為の通報窓口として社内外にヘルプラインを設置し、法令・定款違反を未然に防止する仕組みを取り入れています。これらヘルプラインに寄せられた事案については、毎月1回、社長が招集するコンプライアンス委員会で、対応や解決策を審議しています。

社外取締役からのメッセージ

2015年のコーポレートガバナンスコードの制定以降、企業に求められるコンプライアンスおよびガバナンスのハードルは一層厳しさを増していますが、それ以前よりリンガーハットグループでは、「5つの実践訓」と「リンガーハットフィロソフィー」を指針にして、コーポレートガバナンスの充実と強化に真摯に取り組み続けてまいりました。

コーポレートガバナンスとは、株主利益の立場から、企業の不正行為の防止と企業価値の持続的な向上を目的とした企業活動の根本となる仕組みです。経営の執行と監督機能の分離を基本的考え方として明確に打ち出しているリンガーハットグループにおいて、経営全般に対して外部目線で監視・監督の目を光らせ、客観的かつ中立的な立場で助言を与えるのが、私たち社外取締役の使命だと考えています。

皆さまご承知の通り、外食産業を取り巻く環境は、コロナ禍による来店客の減少、ロシアのウクライナ侵攻の影響を受けたエネルギー価格をはじめとする原材料の高騰、インターネット上での迷惑行為動画の拡散など、めまぐるしく変化しております。そうした変化にも柔軟に対応するべくリンガーハットグループでは、適宜リスクマネジメントとコンプライアンス強化に取り組んでおりますが、今後も時代の変化に対応した実効あるガバナンス機能が発揮できるように、社外取締役の一員として引き続き全力で努めてまいりたく存じます。



株式会社エム・アイ・ビー
代表取締役社長
川崎 享氏

Profile

経営効率の追求と企業体質の改善を図る「NPS(ニュー・プロダクション・システム)研究会」を主宰する株式会社エム・アイ・ビーの代表取締役を務め、他企業での社外取締役としての経験も豊富。その広範な知識と見識によって、適正かつ独立した立場での経営への監督と助言が期待され、一般株主との利益相反を生じるおそれはなく、今後もガバナンス向上に資する人材として登用しました。

リンガーハットを支える経営陣

当社は経営戦略および中期経営計画に基づき、各取締役および監査役に対し特に期待する経験とスキルを特定しています。



佐々野 諸延

代表取締役社長兼CEO

1983年2月
当社入社

2004年3月
当社執行役員西日本営業事業部長

2012年5月
当社取締役管理部担当

2013年11月
当社取締役生産部担当

2019年3月
当社代表取締役社長

2020年3月
当社代表取締役社長兼CEO
(現任)



福原 扶美勇

代表取締役専務

1997年9月
当社入社

2004年3月
当社執行役員東日本営業事業部長

2014年5月
当社取締役海外事業本部担当

2015年3月
当社取締役海外・沖縄事業本部担当

2019年3月
当社専務取締役

2020年3月
当社代表取締役専務(現任)



小田 昌広

常務取締役

1982年6月
株式会社浜勝(現当社)入社

2013年3月
当社執行役員
経営管理グループ担当

2014年5月
当社執行役員管理部兼品質保証チーム担当

2017年5月
当社取締役管理部担当

2019年3月
当社常務取締役(現任)

スキルマトリックス

企業経営	●	●	
海外事業		●	
営業・マーケティング		●	
生産・調達	●		
財務・会計		●	●
人事・ダイバーシティ	●		●
法務・コンプライアンス			●
IT・DX	●		●



(2023年2月28日現在)



川崎 享

社外取締役

2008年5月
株式会社エム・アイ・ピー入社

2013年5月
同社代表取締役社長（現任）

2015年5月
当社社外取締役（現任）



金子 美智子

社外取締役

1980年4月
日本航空株式会社入社

2010年4月
同社客室安全推進部長

2012年5月
同社第2客室乗員部長

2015年5月
同社退社

2015年9月
当社顧問

2016年5月
当社社外取締役（現任）



植木 知彦

常勤監査役

1986年9月
当社入社

2009年5月
リンガーハット開発株式会
社監査役就任

2010年5月
浜勝株式会社監査役就任

2016年3月
当社経理チーム部長就任

2018年3月
当社経理チーム参与就任

2019年3月
リンガーフーズ株式会社監査
役就任、株式会社ミヤタ監
査役就任

2019年5月
当社常勤監査役就任（現任）



山内 信俊

監査役

1972年4月
弁護士登録

1985年2月
尚和法律事務所シニアパー
トナー

2002年1月
外国法共同事業ジョーンズ・
デイ法律事務所東京事務所
パートナー

2015年1月
同事務所オブ・カウンセル

2016年5月
当社監査役就任（現任）

2020年1月
山内信俊法律事務所代表
（現任）



渡邊 佳昭

監査役

1976年4月
株式会社三菱銀行（現 株式
会社三菱UFJ銀行）入行

2006年1月
株式会社三菱東京UFJ銀行
（現 株式会社三菱UFJ銀行）
リテール企画部部長

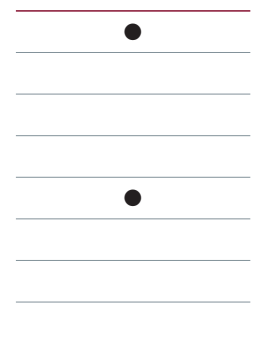
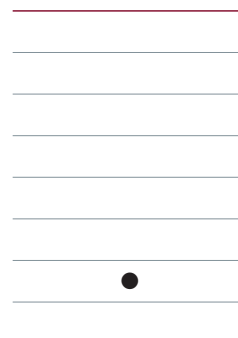
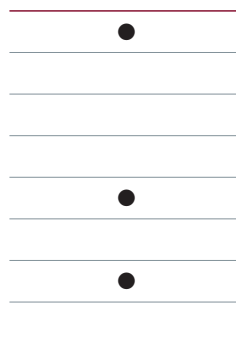
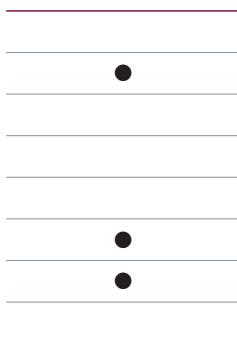
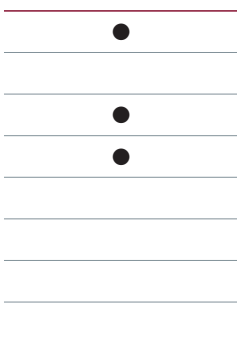
2006年3月
三菱UFJメリルリンチPB証券
株式会社（現 三菱UFJモル
ガン・スタンレーPB証券株
式会社）代表取締役

2010年6月
高砂香料工業株式会社常勤
監査役

2014年6月
エム・ユー・フロンティア債権
回収株式会社常勤監査役

2015年6月
日本酒類販売株式会社常勤
監査役

2018年5月
当社監査役就任（現任）



Corporate Data

会社概要

長崎ちゃんぽん事業 リンガーハットジャパン株式会社



1974年に1号店を開店。長崎ちゃんぽん、長崎皿うどんをはじめとした長崎発祥の味を、お客さまに提供しています。2009年より使用する野菜の国産化に取り組み、国内フードコートを中心に出店を拡大。ASEAN地域を中心とした海外への出店にも注力しています。



三郷中央店



冷凍食品直売所 青梅店

とんかつ事業 浜勝株式会社



とんかつ濱かつは1962年創業。肉や具材の旨みが詰まった揚げ物を、揚げたて切り立てで提供しています。合わせるソースやドレッシング、漬物にもこだわっています。



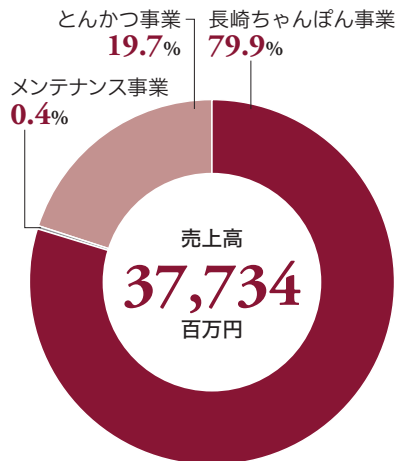
とんかつ濱かつ
福岡大池店



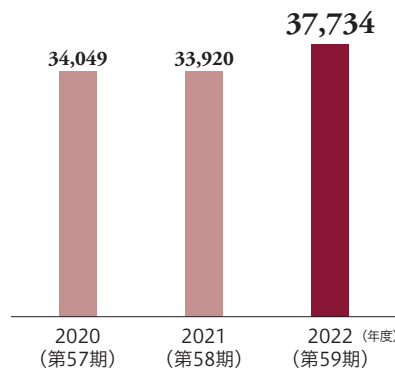
とんかつ濱かつ
熊本新空港通り店

財務データ

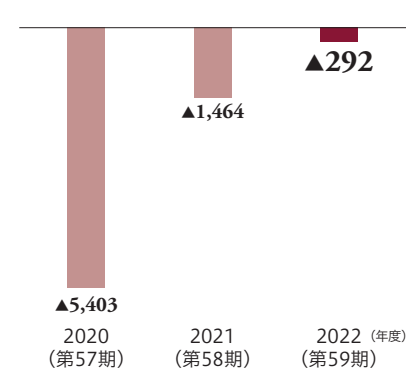
売上高構成比率



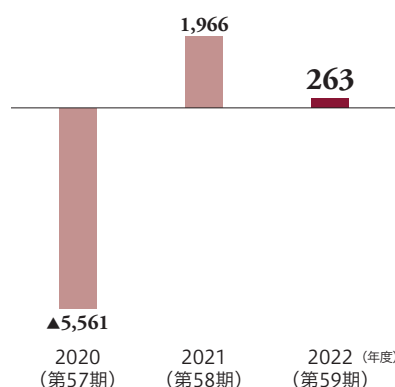
売上高(単位:百万円)



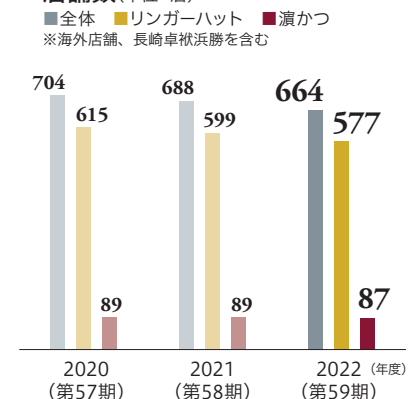
営業利益(単位:百万円)



経常利益(単位:百万円)



店舗数(単位:店)



和食事業 長崎卓袱浜勝



1968年に卓袱料理専門店「長崎卓袱浜勝」として誕生。長崎の郷土料理「卓袱」の味を、半世紀以上にわたり、お客さまに提供し続けています。



外販事業 リンガーフーズ株式会社



ご家庭で手軽に味わえる冷凍食品として、長崎ちゃんぽんや長崎皿うどん等の商品を、オンラインショップや小売店を通じて提供しています。

設備メンテナンス事業 リンガーハット開発株式会社



飲食店の設備メンテナンス・清掃サービスを外食事業向けに提供。その他、自社グループ従業員を対象に保険代理業も行っています。

漬物製造販売事業 株式会社ミヤタ



乳酸発酵させた漬物「長崎ぶらぶら漬」などを中心に、地元長崎の食材を用いた漬物の製造販売を手がけています。

》非財務データ

▶ 国産野菜使用率



100%

▶ 食育教室の開催回数



26 回 (対面開催2回を含む)
192 名 (対面人数11名を含む)

▶ 女性店長・外国人店長数



79 名
(パート含む)

▶ 障がい者在籍人数



88 名

▶ 社員研修時間と参加人数



社員研修時間 **68,573** 時間
参加人数 **1,082** 名

▶ 管理職に占める女性割合と人数



9.4% **5** 名

▶ 育児休暇取得者数



女性 **10** 名
育児休暇取得者復職率100%

▶ 食品リサイクル率



63.4%



株式会社 **リンガーハット**

リンガーハットグループ
企業情報

